

薬事・食品衛生審議会 令和元年度第3回血液事業部会 議事概要

1. 審議開始日：令和2年2月28日(金)
2. 議決日：令和2年3月4日(水)
3. 方法：持ち回り審議による
4. 議事概要

【議題1】令和2年度の献血の受入れに関する計画(案)について

了承する：24名、了承しない0名

よって、令和2年度の献血の受入れに関する計画(案)を了承する。

・頂いた御意見

委員氏名	頂いた御意見	回答
長島 公之	<p>日本医師会では、2019年12月20日から2020年2月27日にかけて、各都道府県医師会に対して輸血用血液製剤の供給状況に関するアンケート調査を実施したところ、11県で課題ありと回答。</p> <p>このうち、3県は献血確保に関する課題があり、今後の献血者の確保、特に若年層の献血者の確保に関する課題が挙げられており、「有効な広報手段等を見い出せておらず、歯痒い状態が続いている。」との意見があった。厚生労働省及び日本赤十字社においては、各地域の実情を把握の上、各地域の好事例を全国に共有するなどして、対策を検討し、きめ細かい対応をお願いしたい。</p> <p>また、7県では血液製剤の供給体制に関する課題があり、日本赤十字社においても各地域の実態を把握するための十分な調査を行い、それを踏まえて、都道府県、地域の医師会、医療機関と緊密な連携のもと、供給体制確保に向けて早急な対策をお願いしたい。特に、三次救急医療機関は重症又は重篤な患者に欠かせない施設であり、地域の医療体制確保の観点からも、離島やへき地での供給体制については十分に配慮してもらいたい。</p>	<p>若年層の献血者の確保については、献血受入計画(案)第2の2(1)イのとおり、SNS等の効果的な広報手段等を活用して、若年層を対象とした普及啓発を進めることとしています。頂いた御意見を日本赤十字社に共有し、献血者確保のための施策に取り組んでまいります。</p> <p>また、地域における輸血用血液製剤の供給体制のあり方については、地域の実情を踏まえ、必要な輸血用血液製剤が安定的に供給できるよう、日本赤十字社等に必要な助言を行ってまいります。</p>

委員氏名	頂いた御意見	回答
武田 飛呂城	<p>新型コロナウイルス感染拡大の予測がつかないところではあるが、長期化すると、次年度の献血者数にも影響が出るものと推察される。必要な血液を確保するため、献血受入時間の拡大などに柔軟に取り組む必要があると思われる。</p>	<p>日本赤十字社では、新型コロナウイルス感染症の発生に係る対応として、ホームページ等で献血への協力を呼びかけるとともに、献血受入時間の延長等、献血しやすい環境を整備し、献血血液の確保に努めています。国においても、引き続き、事態の推移を注視しつつ、地方公共団体と協力の上、日本赤十字社の取組を支援してまいります。</p>
内田 恵理子 田野崎 隆二	<p>災害時等における危機管理に加え、新型コロナウイルス等の感染症の大規模感染、パンデミックに対する危機管理についても、今後、「第3 その他献血の受入れに関する重要事項」として含めるように検討されたい。</p>	<p>今後の献血受入計画の作成に当たっては、今般の新型コロナウイルス感染症の発生に係る対応等も踏まえた内容を検討するよう、日本赤十字社に必要な助言を行ってまいります。</p>
大平 勝美	<p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響による献血者の減少や、献血者減少への対応に関し自治体に協力を求める依頼が血液対策課から行われたと聞く。血液事業部会は献血の安定供給をもって不安のない安全・安心の血液製剤が患者に届けられることを第一にするところだが、厚生労働省や現在唯一の採血事業者である日本赤十字社が最速のリスク管理情報を把握して血液事業部会委員に語り適切な対処ができるようであれば安全確保ができない。令和2年度における献血受入計画への影響の判断等を、日本赤十字社及び監督する血液対策課から意見を表明されたい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、2月下旬から献血血液の確保量が減少傾向となっていたため、日本赤十字社が、ホームページ等で献血への協力を呼びかけ、血液対策課においても、地方公共団体に献血への協力を依頼する事務連絡を発出しました。その後、多くの方に献血にご協力いただき、3月時点において必要な献血血液を確保することができています。引き続き、事態の推移を注視しつつ、令和2年度においても安定して献血血液を確保することができるよう、日本赤十字社において必要な措置を講ずるとともに、国においても、地方公共団体と協力の上、日本赤十字社の取組を支援してまいります。</p>
田野崎 隆二	<p>第二採血事業者が参入したと仮定した場合の献血ルームの青写真などについて議論を開始してはどうか。</p>	<p>献血ルームのあり方等の事業モデルについては、新規の採血事業者において検討されるものと考えています。</p>

【議題2】令和2年度の血液製剤の安定供給に関する計画(需給計画)(案)について

了承する:24名、了承しない0名

よって、令和2年度の血液製剤の安定供給に関する計画(需給計画)(案)を了承する。

・頂いた御意見

委員氏名	頂いた御意見	回答
田野崎 隆二	日本赤十字社による事業目標が提示されていることは好ましいが、次年度は各採血方法による血漿の使用割合について、更に分かりやすい説明がされ、将来見通しについて認識がより共有できることが好ましい。	頂いた御意見について、日本赤十字社に共有の上、今後の参考とさせていただきます。
大平 勝美	新型コロナウイルスのパンデミックが日本だけではなく、世界にどのような影響を及ぼすのか憂慮する。国内献血による需給だけでなく、製造ができない海外依存の血液製剤についても影響が出て、製造・流通の面でも安定した供給に支障が出ないか憂慮する。現時点のリスク管理シミュレーションはあるのか。あるならば、部会委員に提示されたい。	御指摘のシミュレーションは存在しません。なお、海外で製造されている血液製剤も含め、3月時点において新型コロナウイルスの影響で製造を停止している製造所はなく、安定した供給に支障は生じていません。新型コロナウイルスの影響については、今後も引き続き注視してまいります。